

食育ネットワーク（いちゃりば食育ネット）事例発表会を開催

去る1月31日、各地域で様々な活動主体により取り組まれている食育の事例を紹介する「食育ネットワーク（いちゃりば食育ネット）事例発表会」がおきでんふれあいホール（那覇市旭町）で開催されました。

いちゃりば食育ネットは、昨年7月沖縄総合事務局が主体となり消費者、生産者、学校関係者、健康・栄養関係者など「食育」に関わる各層の方々の参加を募り、当局農林水産部ホームページにおいて立ち上げた情報発信、交換のためのネットワークです。本事例発表会では、本ネットワーク会員による事例発表をとおし、更にネットワークの輪が広がり、もって多くの県民が「食育」に関する情報を共有し、県民による草の根的運動として「食育」が推進されることを目的に開催されました。当日、会場には約200名の消費者、生産者、教育や福祉に携わる方々が参加し、熱心に耳を傾けていました。

まず始めに「沖縄で食育を考える」と題し、稲垣純一氏（KBC国際電子ビジネス専門学校校長）による基調講演が行われました。健康維持の基本として体の健康、心の健康、お財布の健康の三つを挙げ、沖縄の長寿県復活と経済発展への期待を述べられました。また、人材育成の点について、学校や家庭、地域で担わなくてはならない子どもに対する躾や社会経験と関連づけた食の場の大切さを話されました。

事例発表会では、まず城間康彦氏（読谷村役場）から「沖縄の食材を利用した学校給食の取組」について、続いて金城春子氏（民話と食の店「門」店主）から「食で心も体も生き生き人生」について、宮まさよ氏（社）沖縄県栄養士会）から「沖縄版「食事バランスガイド」」について、安次富日奈子氏（NPO法人調査隊おきなわ）から「地産地消を現場から」についての4事例が紹介されました。

その後の意見交換では、パネリストに大城京子氏（コープおきなわ副理事長）宮里良子氏（うるま市立川崎小学校校長）、仲西真希氏（琉球新報社編集局文化部記者）を向かえ、食育に関しての意見や考えについて発言がありました。

また、宮里氏からは川崎小学校で取り組まれている「給食に感謝する日＝お弁当の日」について、学校だけではなく地域や家庭の協力を得てようやく実施にたどりついた経緯や効果についての報告があり、「給食についてかかえている問題解決のため、行動を起こして良かったなど実感しています。このことをご父母や地域のみなさんにも伝えていきたいです。」との発表もありました。

今回の事例発表会をとおして、食育活動の裾野が確実に広がっていることが多くの参加者に理解され、共鳴を呼びました。本日紹介された事例を参考に、今後ともいちゃりば食育ネットの活動を通じた更なる食育の推進を期待しつつ盛況裏の内に事例発表会は終了しました。

